

# 市民協働研修発表会に参加して

市民活動サポートセンターいなぎ  
前理事 小林 攻洋

この研修が今の形になってから今年が3年目、発表会には3度とも参加させてもらっていますが、パワーポイントを使った今時の若い職員のプレゼンテーションの上手さには毎回感心させられています。

ただ少し気になったことは、この研修が市民との対等な話し合いの場ではなく、市民からの要望や苦情を聞く場になってしまっていないかという懸念です。あるグループの発表にそれに近い表現があったからです。



私が市の職員になった頃は、まちづくりへの“市民参加”の重要性が盛んに叫ばれていた時代でした。しかし“市民参加”は行政のアリバイ工作ではないか?! というような批判もあって、少し色あせてきた時に登場したのが“協働”の考え方でした。それは目からウロコでした。というのも、私自身“市民参加”にまつわる市民と行政間の相互不信に忸怩たる思いをしていたからです。



もう一度おさらいをすると、協働のまちづくりを進めるに当たって必要で大切なことは「補完性/自主・自立/情報の共有と公開/目的の共有/対等の関係/相互理解/役割分担と責任範囲の明確化」といった原則を尊重することだと言われます。

コトバにしてしまうと「なるほど」と理解できますが、いざ実行に移すととなると、そう簡単なことではありません。例えば、市民や職員という立場を超えて相互に理解し合い、対等な関係をつくるには、けっこう時間が掛かりますし、乗り越えなければならないハードルも沢山あるからです。

そして、相互理解や対等な関係を作る上で大事になることの一つは、「共感」し合うことだと思います。ただし、ここで言う共感とは「シンパシー」ではなく「エンパシー」、すなわち相手との違いを超えて、その立場にたつて相手の感情や経験などを理解しながら話し合いを進めることです。



「税金を納めているのだから、まちづくりは行政がやるべきだ」とする考え方が最近では主流になっていますが、稲城がまだ村や町だった頃のまちづくりの主役は市民（住民）でした。行政施策の中にその痕跡がたくさん残っています。私自身は、まちづくりを行政の占有事項とはせず、市民にもまちづくりを進める責任や義務・権利があると考えています。また、一緒に汗を流して進めると、まちづくりの面白さや楽しみが分かってくるから、それを行政の占有事項にしてしまうのは勿体ない気がしています。



今回研修に参加した大部分の職員は、仕事以外で市民（活動団体）と話し合いをしたのは初めてだと思います。ですから、以上のことを踏まえて、これで終わりではなく、ここが出発点だと思って欲しいのです。この研修をきっかけに、実務の中で「協働」への思いを育み、実践に結びつけていって欲しいと願っています。

※「エンパシー」について知りたい方は、ブレイディみかこ著「他者の靴を履く ～アナーキック・エンパシーのすすめ～」(文藝春秋刊)を一読されることをお勧めします。

ご案内

## NPO 講座

# 世代循環型のNPO

～事業承継と世代交代の仕組みづくり～

メンバーの高齢化や次世代の担い手不足に悩む市民活動団体が、いかに後継者への世代交代を進め、チームのミッションを果たしていくか。地域の多様な働き方に出会う「はたらき方マルシェ」の開催やコミュニティ運営、起業支援等を行う非営利型株式会社ポラリスの取締役ファウンダー・市川望美さんにお話しいただきます。

日時  
3月20日(水・祝)  
10:30～12:00

会場  
稲城市地域振興プラザ  
4階大会議室

NPO講座  
事業承継 世代交代 運営講座  
300円  
世代循環型のNPO  
～事業承継と世代交代の仕組みづくり～

日時 2024年3月20日(水・祝)  
10:30～12:00  
会場 稲城市地域振興プラザ  
4階大会議室

お申し込み・お問い合わせ先  
TEL 042-378-2112  
info@inagi-support.org



申込み・問合せ  
市民活動サポートセンターいなぎ TEL. 042-378-2112